

4. 今後の調査について

4-1 調査地の設定について

当初計画における調査地点・調査ルートの設定について

動植物調査では、ダム事業実施区域周辺における動植物相の状況、着目すべき種あるいは群落の状況、生育・生息環境の状況について把握し、今後の基礎資料とすることをその主な目的としています。

このため、植物に関しては、広域的に生育状況を把握するために事業実施区域周辺一帯を調査範囲としています。また、陸域の動物に関しては、さまざまな環境での生息状況を把握するために、植生・地形などが異なる多様な環境に調査地点・調査ルートを設定しています。水域の植生調査や、魚類・底生動物などの動物調査についても、より広域的な生育・生息状況の把握を目的として、ダム予定地上下流に範囲を広げ、調査地点を設定しています。

平成 15 年度及び平成 16 年度に実施する各調査項目毎の、調査地（範囲・地点・ルート等）とその概要を下表に一覧します。

調査範囲・地点・ルート

区分	調査項目	範囲・地点・ルート等
植物(陸域)	植物相調査	湛水予定区域周辺
	方形区調査	湛水予定区域周辺 35 地点
	帯状区調査	湛水予定区域周辺主要植生について 2 ライン
" (水域)	水生植物調査	額平川・宿主別川流域、ダム予定地上下流
哺乳類	捕獲調査	湛水予定区域外 5 地点
	痕跡調査	湛水予定区域外 3 ルート
" (コウモリ類)	ハットリクター調査	湛水予定区域周辺 7 箇所
	捕獲調査	
鳥類(一般鳥類)	ラインセンサス	湛水予定区域周辺 4 ルート
	定点観察 ・夜間定点観察	湛水予定区域周辺、 ラインセンサス 1 ルートにつき 1~2 地点
" (猛禽類調査)	行動圏調査	湛水予定区域周辺に 9 地点、各調査期毎に流動的に設定
両生類	目視確認、捕獲	湛水予定区域外 5 ルート
爬虫類	目視確認、捕獲	湛水予定区域周辺 4 ルート
魚類	採集、目視確認	額平川・宿主別川のダム予定地上下流に 5 地点
陸生昆虫類	一般採集	湛水予定区域外 4 ルート
	ベイトトラップ	湛水予定区域外 6 地点
	ライトトラップ	湛水予定区域外 2 地点
底生動物	定性採集、定量採集	額平川・宿主別川のダム予定地上下流に 5 地点

4-2 調査中止の状況

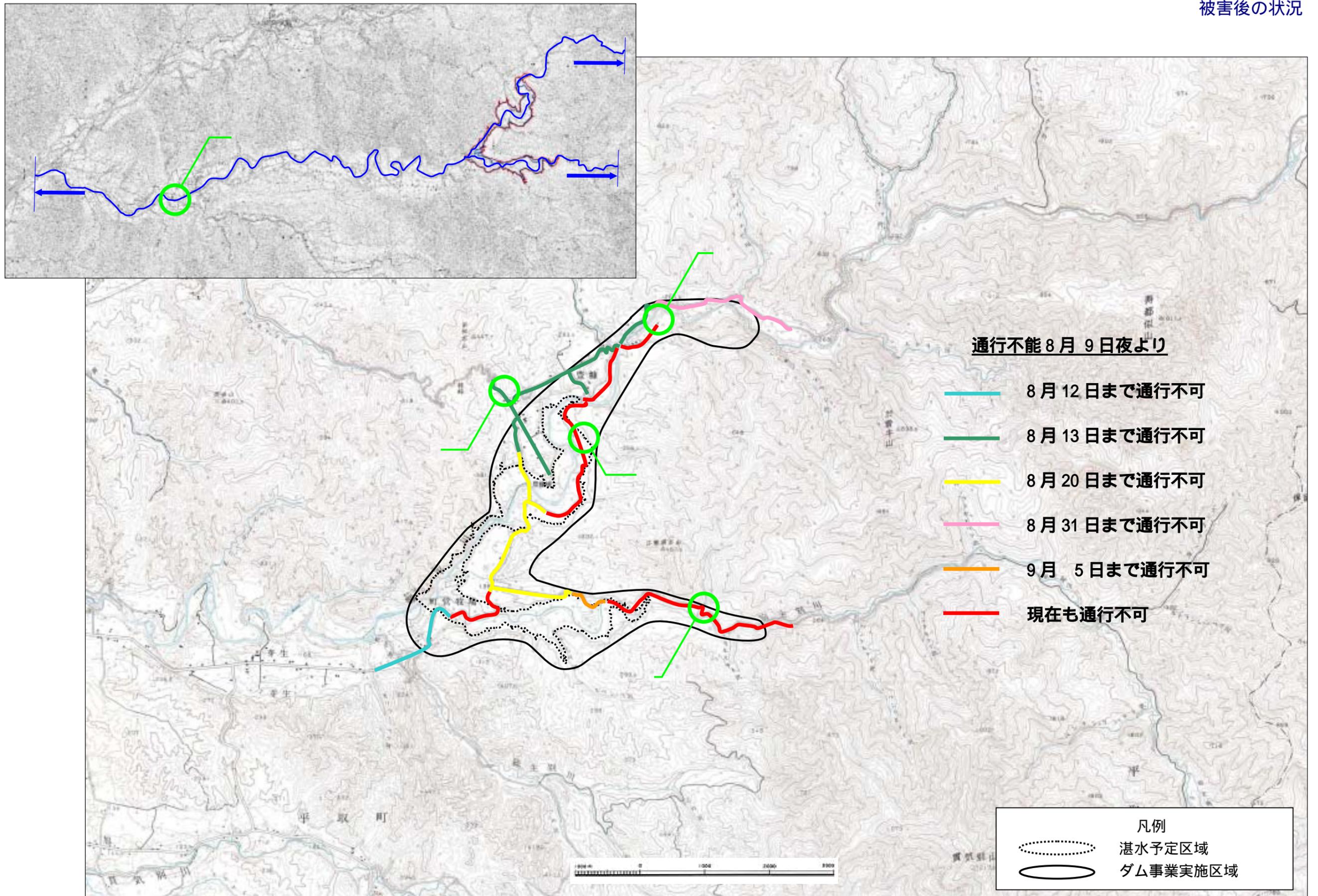
これまで述べた通り、台風 10 号による出水等の影響によって、平取ダム予定地周辺においても、河川の増水や道路の崩落などによって、8 月 10 日以降に計画していた一部の項目については、現地調査を中止せざるを得ない状況が続きました。

以下に、8 月の台風 10 号の通過後に実施を取りやめた調査項目を一覧します。

動植物調査 現地調査中止の状況

区分	調査項目	調査計画	出水後の中止理由(調査期ごと)
植物(陸域)	植物相調査 (秋季)	平成 15 年 8 月中旬～9 月上旬	・移動ルートの損壊による一部のエリアへの到達不能及び出水時による危険性のため。
植物(水域)	水生植物調査 (秋季)	平成 15 年 8 月中旬～9 月上旬	・出水直後の調査地の直接的な危険性、調査範囲の 変更のため。
		(平成 15 年 10 月)	・植物に関しては、これらの状況を踏まえ、10 月に湛水区域周辺での災害状況確認調査を実施。
哺乳類	捕獲調査	平成 15 年 8 月、10 月	・8 月：移動ルートの損壊により 1 箇所を除く調査地点への到達不能のため。 ・10 月：調査地の環境の変化、及び移動ルートの損壊による調査地点 2 箇所への到達不能のため。
哺乳類(コウモリ類)	捕獲調査	平成 15 年 8 月、9 月	・捕獲調査地の環境の変化、及び移動ルートの損壊による捕獲調査地 4 箇所への到達不能のため。
猛禽類	行動圏調査	平成 15 年 8 月、9 月	・(移動ルートの損壊による一部地域が一部のエリアへの到達不能のため、地点数を 6 地点に変更して調査を実施)。
爬虫類	目視確認、捕獲	平成 15 年 10 月	・調査地の環境の変化、及び 4 箇所の内 1 箇所への到達不能のため。
陸生昆虫類	一般採集 ライトトラップ ベイトトラップ	平成 15 年 8 月	・調査地の環境の変化、一般採集 1 箇所・ベイトトラップ 1 箇所を除く全調査地点到達不能のため。

これらに関連して、調査地の現状写真を次のページから示します。



額平川沿い幌見橋から上流域 撮影日：平成 15 年 10 月 8 日



調査地：爬虫類（目視確認調査）、陸生昆虫類（一般採集、ベイトトラップ、ライトトラップ）

額平川沿いの豊糠地区 撮影日：平成 15 年 10 月 9 日



調査地：哺乳類（捕獲調査）、コウモリ類（捕獲調査）、爬虫類（目視確認調査）、陸生昆虫類（ベイトトラップ、ライトトラップ）

4. 今後の調査について

桂峠周辺 撮影日：平成 15 年 10 月 8 日



調査地：哺乳類（捕獲調査） 陸生昆虫類（一般採集、ベイトトラップ）

宿主別川沿い 撮影日：平成 15 年 10 月 9 日



調査地：哺乳類（捕獲調査） コウモリ類（捕獲調査）、爬虫類（目視確認調査）、陸生昆虫類（一般採集、ベイトトラップ）

貫気別地区

被災前 撮影日：平成 11 年 9 月 3 日



被災後 撮影日：平成 15 年 9 月 5 日



調査地：植物（水生植物調査範囲）

4-3 今後の調査方針

平成 15 年度及び平成 16 年度に実施を予定していた動植物調査は、当事業実施区域周辺での動植物の分布状況等の把握を目的として、現地調査計画を策定しています。

今年度実施した調査に関して、洪水後のデータは年間を通して環境改変の著しい状態を調査したことになり、本来の調査目的から逸脱することが考えられます。

そのため一部項目については、調査を中止し時期を順延しました。また、すでに実施した項目についても必要に応じて再調査を行うこととしました。

今後は、これらの項目について再実施の必要性や代替地点の選定方法等を検討し、調査を実施します。

4-4 行程表

中止・延期の状況を踏まえ、これらの状況を踏まえ、順延あるいは中止する項目について、整理した環境調査スケジュールを、以下に示します。

区分	年度 調査項目	平成 15 年度				平成 16 年度			
		春季	夏季	秋季	冬季	春季	夏季	秋季	冬季
自然環境 項目	植物								
	植物 (被災状況確認)								
	哺乳類								
	哺乳類 (コウモリ類)			×					
	鳥類 (一般鳥類)								
	鳥類 (猛禽類)								
	両生類								
	爬虫類								
	魚類								
	魚類 (被災状況確認)								
	陸生昆虫類		×						
	底生動物								
	底生動物 (被災状況確認)								

上段	当初調査計画スケジュール(台風前)
下段	変更後調査計画スケジュール

	実施済みの調査項目
	当初計画どおり実施する調査項目
	調査を次年度へ繰り越す調査項目
	順延後の調査項目
×	調査を中止する項目
	調査を追加する調査項目